

# 芸術系教科・科目における 目標等の在り方について

# **【議題（1）】芸術系教科・科目における目標等のあり方について**

**総則・評価特別部会における改善の方向性を踏まえた「目標」「見方・考え方」の在り方**

# 現行学習指導要領における目標等の考え方

## 資質・能力の明確化

- 児童生徒が社会の変化に主体的に向き合い未来の創り手となるために必要な力を育むことなどを目指し、教科の内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を重視するため、目標・内容を資質・能力の観点から再整理
- 資質・能力の三つの柱を以下のように整理
  - 知識及び技能について  
知識について、個別の知識を学びながら、新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識  
技能について、個別の技能を身に付けながら、新たな技能が既得の技能等と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるように習熟・熟達した技能
  - 思考力、判断力、表現力等について、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力。課題を解決する過程として、思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程など
  - 学びに向かう力、人間性等について、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等、また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するもの

※学びに向かう力・人間性等の学習評価においては、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分がある

## 見方・考え方について

- 教科等の学びの深まりの鍵として、「見方・考え方」を働きかせることを重視。
- 「見方・考え方」は、以下の点から重要なものとして整理
  - 新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得すること
  - 思考力、判断力、表現力等を豊かなものとすること
  - 社会や世界にどのように関わるかの視座を形成するために重要なものであること

# 「目標」、見方・考え方、高次の資質・能力のあり方について① (10/14総則・評価特別部会（第2回）及び「論点整理」における改善の方向性)

## 目標について

- 柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示す

- 「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理

- ・学びを方向付ける人間性
- ・学びの主体的な調整
- ・初発の思考や行動を起こす力・好奇心
- ・他者との対話や協働

「学びに向かう力、人間性等」には、  
以下の2つの要素をバランスよく含める

- 学習で育みたい情意・感性  
(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)
- 学習で育みたい学びや生活に向かう態度  
(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

## 見方・考え方について

- 「学びの深まりの鍵」としての役割は内容（高次の資質・能力による構造化）の中で示す
- 「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化
- 卒業後まで視野に入れ、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけることを示す
- 目標直下に別途欄を設け記載
- 以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討
  - ① 当該教科等が扱う事象や対象
  - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
  - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- 新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示す

# 「目標」、見方・考え方、高次の資質・能力のあり方について②

## (10/14総則・評価特別部会（第2回）及び「論点整理」における改善の方向性)

### 高次の資質・能力について

- 高次の資質・能力は、「知・技」、「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元（題材）づくりのイメージを教師が持てるようにするため、**「知識及び技能の統合的な理解」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」を示す**
- 検討においては、以下の点などに留意する
  - ・ 教科等の**本質的意義（見方・考え方）**に照らし適切かどうか
  - ・ **個別の資質・能力の「深まり」**を示す事ができているか
  - ・ 深い学びを実現する**単元（題材）**づくりにおいて**参考**となるか（児童生徒が追究する本質的な「問い合わせ」の構想、課題の構想）
  - ・ **教師にとって分かりやすく**、教科等の魅力が伝わり、発達段階に即して妥当かどうか

# 表形式による構造化パターン①（並列パターン）

令和7年10月14日  
総則・評価特別部会  
資料1-1 p.9

資質・能力の一体的育成の可視化

## （1）項目名

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
○学年相当	<p>(小見出し) · · (小見出し) · 右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するために必要な要素となる知識及び技能を示す (検討項目⑤で詳細を検討)</p>	<p>(小見出し) · · (小見出し) · 左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す (検討項目⑤で詳細を検討)</p>
○学年相当	<p>(小見出し) · · (小見出し) · · (小見出し) · · (小見出し) · · (小見出し) · · (小見出し) · ·</p>	<p>知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。</p>
(内容の取扱い)		

資質・能力の深まりの可視化

# 表形式による構造化パターン② (並行パターン)

令和7年10月14日  
総則・評価特別部会  
資料1-1p.11

## 資質・能力の深まりの可視化



想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

	○学年相当	○学年相当	○学年相当
<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>	(1) 項目名 ・ ・ ・ (2) 項目名 ・ ・ ・ (3) 項目名 ・ ・ ・	(小見出し)  下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。 (検討項目⑤で詳細を検討)	(小見出し)  (小見出し)  ・ ・ ・
<b>知識及び技能に関する統合的な理解</b>	(1) 項目名 ・ ・ (2) 項目名 ・ ・ (3) 項目名 ・ ・ (4) 項目名 ・ ・	(小見出し)  左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す (検討項目⑤で詳細を検討)	(小見出し)  (小見出し)  ・ ・ ・
<b>(内容の取扱い)</b>		学年相當に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。	・ ・ ・

資質・能力の一體的育成の可視化

# 目標・内容の構造化のイメージ

## 目標・内容の構造化のイメージ

◎芸術系教科の学習指導要領解説編において掲載される、教科の目標、各学年の及び内容の系統表等が総則・評価特別部会の方針の並行パターンに類似しているため、並行パターンを例にした場合のイメージとして以下示したもの。  
◎内容の議論を踏まえ、芸術系教科として並列パターン、並行パターンのどちらとするかは今後検討。

### ◎目標

● ● する資質・能力 (資質・能力の趣旨) について、● ● することなどを通して (学習過程) 、次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能

XXXXXXX

#### 思考力、判断力、表現力等

XXXXXXX

#### 学びに向かう力・人間性等

XXXXXXX

### ◎見方・考え方

● ● (当該教科で扱う事象や対象) を ● ● (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え) 、● ● (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

### ◎内容

#### A 表現

		第1学年及び第2学年相当	第3学年及び第4学年相当	第5学年及び第6学年相当
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXX	[共通事項]	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	1)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	2)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXX	[共通事項]	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	1)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	2)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX

#### B 鑑賞

		第1学年及び第2学年相当	第3学年及び第4学年相当	第5学年及び第6学年相当
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXX	[共通事項]	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	1)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	2)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXX	[共通事項]	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	1)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX
	2)	・XXXXXXX	・XXXXXXX	・XXXXXXX

# 目標及び見方・考え方等の改善の方向性①



## 芸術系教科における現状と課題例

第1回及び第2回WGにおける委員の意見や学習指導要領実施状況調査の分析などにより、芸術系教科として以下の現状と課題が考えられる。

- 我が国の文化芸術に関する教育の充実が求められていること
- 教師からの働きかけが強く、子供が自律的に学習を進められていない状況が一部に見られること
- 表現及び鑑賞の活動の相互の関連付けが適切に行われていない状況があること
- 児童生徒が芸術系教科・科目の学びの意義について、十分に実感できている状況に至っていないこと
- 芸術系教科・科目での学びを、豊かな社会の創造にどのようにつなげていけるのか

子供たちが正解を求めることがなく、芸術のよさや面白さを感じようとする意識をもつことができないのではないか

子供たちが諸感覚を働かせて感じたことを、知識を基に説明したり、教師が多様な子供の視点や考え方で目に向けることができないのではないか

子供たちに、学校教育で身に付けた資質・能力を生活や社会などへ関わらせていく視座が形成できていないのではないか

など

### 文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

### 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

- ・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」  
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%
- ・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」  
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

### 第1回、第2回ワーキンググループにおける委員の意見の例

- ・子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でもなく放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えることや、学習の過程を重視した指導が求められる。
- ・創造性は今むしろ社会との関わりにおいてペクトルは外に向かうのだということが非常に重要になってきている。
- ・子供自らが問い合わせ立てて課題を解決できるような授業を考えることが大切。



## 改善の方向性（案）

現状と課題を踏まえ、目標及び見方・考え方、高次の資質・能力等について、以下の改善の方向性が考えられる。

- ① **捉えたり、感じたりしたことを、要素・特徴※や背景にある文化との関わりで理解したり思考・判断・表現したりすることができるようになること（○）**  
※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素
- ② **表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことができる重視すること（▲）**
- ③ **表現及び鑑賞の学習において、正解は一つではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるべきものであること（△, ◆, ▲, ■）**
- ④ **表現及び鑑賞の学習において、工夫したことや感じたことを伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深めようとする（■）**
- ⑤ **他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたりできるようにすること（■）**
- ⑥ **生活や社会、文化などとの関わりや、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりするなど豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことについて示すこと（◇）**

（次期学習指導要領に向けた基本的な考え方）

- ・主体的・対話的で深い学びの実装（○）
- ・多様性の包摂（△）
- ・実現可能性の確保
- ・自らの人生の舵取りをする力と民主的な社会の創り手育成（◇）

（学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ）

- ・学びを方向付ける人間性
- ・初発の思考や行動を起こす力・好奇心（▲）
- ・他者との対話や協働（■）
- ・学びの主体的な調整（◆）

※主として考えられる関係性を記号で示している

# 目標及び見方・考え方等の改善の方向性②

## 目標の主な改善の方向性（案）

※現行学習指導要領からの改善案として主なものを整理したものであり、現行の記述から変更のない部分については掲載していない

### ① 捉えたり、感じたりしたことを、要素・特徴や背景にある文化と関わらせて理解することや思考・判断・表現することに係る記述を充実

知識及び技能  
思考力、判断力、表現力等

#### ○音楽

- 「曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら音楽を聴き深める」などを明記  
(音楽（小・中・高）) 【思考力、判断力、表現力等】

#### ○図画工作、美術、工芸

- 「造形の働き」、「美術の働き」、「工芸の働き」を明記 (図画工作、美術、工芸（小・中・高）) 【知識及び技能】
- 「みることができる」などを明記 (図画工作、美術、工芸（小・中・高）) 【知識及び技能】
- 「美術文化」、「工芸の伝統と文化」を明記 (美術、工芸（中・高）) 【知識及び技能】

#### ○書道

- 「書の伝統と文化」を明記 【知識及び技能】

- 表現及び鑑賞に関する学習の充実
- 文化の理解に関する学習の充実
- 学んだことを生活や社会の中で生かすことができるような学習の充実

### ② 自分の思いや考えなどをもつことができることを重視

思考力、判断、表現力等  
学びに向かう力、人間性等

#### ○音楽

- 「音楽表現を考え思いや意図をもつこと」などを明記 (音楽（小・中・高）) 【思考力、判断力、表現力等】
- 「創造的に音楽に関わり親しむ」ことなどを明記 (音楽（小・中・高）) 【学びに向かう力、人間性等】

#### ○図画工作・美術

- 「楽しく創造活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう」ことなどを明記 (小・中) 【学びに向かう力、人間性等】

- 子供が思いや考えをもち、創造することを重視した学習の充実

# 目標及び見方・考え方等の改善の方向性③

## 目標の主な改善の方向性（案）

※現行学習指導要領からの改善案として主なものを整理したものであり、現行の記述から変更のない部分については掲載していない

- ③ **児童生徒一人一人のありようを尊重した学習活動の充実** 学びに向かう力、人間性等
- ④ **伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深める**ようにする
- ⑤ **他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたり**できるようにする

### ○全ての教科・科目

- ・「主体的・協働的」に学習などに取り組むことを明記【学びに向かう力、人間性等】

➤ 自己の学びを調整したり、共に学び合ったりする学習の充実

- ⑥ **豊かな社会の創造や幸福な人生**に繋げていける教育の充実 学びに向かう力、人間性等

### ○高等学校芸術科

- ・「芸術によって」心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことを教科目標に明記（芸術（高））  
【学びに向かう力、人間性等】 ※各科目目標においても同様に記載
- ・「豊かな情操を培う」ことを科目目標に明記（音楽、美術、工芸、書道（高））【学びに向かう力、人間性等】

➤ 芸術系教科の学びをよりよい社会や幸福な人生に繋げていけるようにする

## 見方・考え方の主な改善の方向性（案）

- ⑥ **豊かな社会の創造や幸福な人生**に繋げていける教育の充実

- 【音楽】「生活や社会、伝統や文化などに関わらせて、自分や他者にとっての意味や価値を見いだす」を明記
- 【図画工作】「生活や社会、文化と関わり、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす」を明記  
【美術・工芸】「生活や社会、文化と関わり、自分としての意味や価値をつくりだす」を明記
- 【書道】「書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などの関わりから、自分や他者にとっての意味や価値を見いだす」を明記

# 小学校音楽科の目標見直し

## 現行の記載

### 【小学校学習指導要領】

#### ◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
曲想と音楽の構造などの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようとする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

#### ◎目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能 (案)	思考力、判断力、表現力等 (案)	学びに向かう力、人間性等 (案)
	曲想と音楽の構造などの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようとする。	音楽活動の楽しさを味わいながら主体的・協働的に学習に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性を働かせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

- 音や音楽

(当該教科固有の物事を捉える視点)

- 音楽を形づくっている要素とその働きの視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

- 生活や社会、伝統や文化などに関わらせて、自分や他者にとっての意味や価値を見いだす

# 中学校音楽科の目標見直し

## 現行の記載

### 【中学校学習指導要領】

#### ◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようとする。

##### 学びに向かう力・人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその動きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

#### ◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能 (案)

曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等 (案)

音楽表現を~~考え思いや意図をもつこと~~<sup>②</sup>や、~~曲や演奏のよさや美しさなどを~~<sup>評価しながら</sup>音楽を~~聞き~~<sup>深める</sup><sub>①</sub>ができるよう~~する~~<sup>する</sup>。

##### 学びに向かう力、人間性等 (案)

~~音楽活動の楽しさを味わい~~<sup>②</sup>ながら~~主体的・協働的~~<sup>③④</sup>に学習に取り組み~~⑤~~、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性を働かせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・音や音楽

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・音楽を形づくっている要素とその動きの視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・~~生活や社会、伝統や文化などに関わらせて、自分や他者にとつての意味や価値を見いだす~~

# 小学校図画工作科の目標見直し

## 現行の記載

### 【小学校学習指導要領】

#### ◎図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくりだすことを表したりすることができるようとする。

##### 思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力・人間性等

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

#### ◎目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能（案）

対象や事象を捉える造形的な視点や、造形の働き①について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとすることやみることができる②ようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等（案）

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力・人間性等（案）

主体的・協働的③④⑤に、楽しく創造活動に取り組み②、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎解説の「造形的な見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと



#### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性や想像力を働かせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・対象や事象

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・造形的な視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・生活や社会、文化と関わり、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす

# 中学校美術科の目標見直し

## 現行の記載

### 【中学校学習指導要領】

#### ◎美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。

##### 思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力・人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎解説の「造形的な見方・考え方」

よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働きかせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

#### ◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

###### (案)

対象や事象を捉える造形的な視点、**美術の働きや美術文化①**について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表したり<sub>みたりする①</sub>ことができるようとする。

##### 思考力、判断力、表現力等 (案)

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、**美術**に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力、人間性等 (案)

**主体的・協働的③④⑤に美術の創造活動に取り組み、創造する喜びを味わう②**とともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性や想像力を働きかせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・対象や事象

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・造形的な視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・**生活や社会、文化と関わり**、自分としての意味や価値をつくりだす

# 高等学校芸術科の目標見直し

## 現行の記載

【高等学校学習指導要領】

### ◎芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

#### 思考力、判断力、表現力等

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようとする。

#### 学びに向かう力・人間性等

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### ◎解説の「各科目における見方・考え方」

各科目の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことである。具体的には、音楽における「音楽的な見方・考え方」、美術及び工芸における「造形的な見方・考え方」、書道における「書に関する見方・考え方」である

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

### ◎目標

芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能 (案)

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようとする。

#### 思考力、判断力、表現力等 (案)

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようとする。

#### 学びに向かう力、人間性等 (案)

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって⑥心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

(当該教科で扱う事象や対象)

・音や音楽、対象や事象、文字や書

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・音楽を形づくっている要素とその動き、造形的、書を構成する要素やそれらが相互に関係する動きの視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・意味や価値を見いだしたりつくりだしたりする

# 高等学校芸術科（音楽）の目標見直し

## 現行の記載

【高等学校学習指導要領】

### ◎芸術科（音楽Ⅰ）の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働きかせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

#### 思考力、判断力、表現力等

自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようになる。

#### 学びに向かう力・人間性等

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### ◎解説の「音楽的な見方・考え方」

感性を働きかせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその動きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること

## 改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

### ◎目標

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能 (案)

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

#### 思考力、判断力、表現力等 (案)

自己のイメージをもって音楽表現を~~考え方~~表現意図をもつことや②、音楽を解釈したり曲や演奏のよさや美しさなどを評価したりしながら音楽を聴き深める① ことができるようする。

#### 学びに向かう力、人間性等 (案)

主体的・協働的に~~学習~~取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的②に音楽や音楽文化と関わり親しんでいくとともに、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく⑥ 態度を養い、豊かな情操を培う⑥。

### ◎見方・考え方

● 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性を働きかせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・音や音楽

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・音楽を形づくっている要素とその動きの視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・生活や社会、伝統や文化などに関わらせて、自分や他者にとつての意味や価値を見いだす

# 高等学校芸術科（美術）の目標見直し

## 現行の記載

【高等学校学習指導要領】

### ◎芸術科（美術Ⅰ）の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。

#### 思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

#### 学びに向かう力・人間性等

主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### ◎解説の「造形的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

## 改善案（現行ベースのたたき台）

### ◎目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

#### 知識及び技能 (案)

対象や事象を捉える造形的な視点、**美術の働きや美術文化①**について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表したり<sup>みたりする①</sup>ことができるようとする。

#### 思考力、判断力、表現力等 (案)

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって**美術**に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

#### 学びに向かう力、人間性等 (案)

主体的**協働的③④⑤**に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、**美術によって⑥**心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、**豊かな情操を培う⑥**。

### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性や美意識、想像力を働かせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・対象や事象

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・造形的な視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・**生活や社会、文化と関わり**、自分としての意味や価値をつくりだす

# 高等学校芸術科（工芸）の目標見直し

## 現行の記載

### 【高等学校学習指導要領】

#### ◎芸術科（工芸Ⅰ）の目標

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働きさせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようとする。

##### 思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力・人間性等

主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

#### ◎解説の「造形的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

#### ◎目標

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

###### （案）

対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化①について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表したり<sub>みたりする①</sub>ことができるようとする。

##### 思考力、判断力、表現力等（案）

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。

##### 学びに向かう力、人間性等（案）

主体的・協働的③④⑤に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって⑥生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養い、豊かな情操を培う⑦。

#### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性や美意識、想像力を働かせ、

（当該教科で扱う事象や対象）

・対象や事象

（当該教科固有の物事を捉える視点）

・造形的な視点

（当該教科固有の考え方や判断の仕方）

・生活や社会、文化と関わり、自分としての意味や価値をつくりだす

# 高等学校芸術科（書道）の目標見直し

## 現行の記載

【高等学校学習指導要領】

### ◎芸術科（書道Ⅰ）の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようとする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### ◎解説の「書に関する見方・考え方」

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと

## 改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

### ◎目標

書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能 (案)	思考力、判断力、表現力等 (案)	学びに向かう力、人間性等 (案)
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、創造的に表現するための基礎的な技能を身に付けられるようとする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を感じ取り、捉えたりすることができるようとする。	主体的・協働的③④⑤に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によつて⑥心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う⑥。

### ◎見方・考え方

- 見方・考え方には以下の要素を含むことを検討

感性を働かせ、

(当該教科で扱う事象や対象)

・文字や書

(当該教科固有の物事を捉える視点)

・書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点

(当該教科固有の考え方や判断の仕方)

・書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などの関わりから、自分や他者にとっての意味や価値を見いだす

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見①

## 【創造性】

- 芸術系教科の特徴として創造性がある。自分にとってどんな価値があるかを考えることにより、世の中の様々なことが自分にとって意味のあることになる。それが芸術系教科を学ぶ意義ではないか。
- 美術教育における創造性について、意味や価値をつくりだすことは、見方・考え方の位置付けられているが、現実に対する意味、そして、まだ見ぬ未来に向けた意味、つまり、子供による問題提起が重要。
- 創造することの喜びを味わい、自ら考え、自らものを創っていくという創造する能力は変化の激しい社会において重要な資質・能力であり、芸術系教科の根本となる。
- 児童生徒が主体的に自分の感性で作品をつくる際の前提としてコンセプトワーク（企画・構成力）を大事にしたい。論理的思考、創造的思考、批評的思考などが複雑に入り込んでいる。イノベーションが求められる現代社会においてこれら三つの思考は重要。
- 芸術教育は鑑賞者だけではなく表現者を育てるということを考えたときに、創造性と結びつく。子供たちに創造性を育むために、教師がどのように創造性を意識した授業デザインができるかを考えることが重要。
- 芸術系教科において創造性を育むためには、知性と感性をどのように関連付けて新たな価値を生み出すか、または自分で価値を見出すか、という学習が重要。
- 中核的概念等の示し方に関しては、現行の学習指導要領を発展し、創造性や感性といった要素でまとめるべき。
- 創造性は高次の資質・能力であり、創造性を支える基盤的能力を柱の中に位置付けることにより指導の具体性が実現される。
- 【音楽】音楽は再現芸術が中心であり、既存の曲から作曲者の意図を探りながら演奏していくという特徴がある。授業でみんなで演奏する活動で、作曲者の考え方や音楽構造読み込んでいく中で、いかに自分のオリジナリティのある表現を見いだしていくか、それをみんなで表現し創意工夫を位置付けていくのが大事。
- 【図画工作】図画工作・美術科の現行の見方・考え方の文末は「意味や価値をつくりだすことであり、教科の本質的意義である創造の重要な部分」である。「つくる」ではなく「つくり、そしてだす」という中に、これまでになかった意味や価値を創出する意味がある。創造は現状の問題解決のために発揮されるだけでなく、未来に向けた問題提起としても発揮される。
- 感性や創造性が大切であり、感性はよさや美しさについて心が動く、この点を育てることが重要。創造性では、身体も使いながら自分自身にとっての意味や価値をつくりだすことが重要。それは、自分自身をもつくりだすことである。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見②

## 【感性】

- 子供にとっての芸術系教科を学ぶ意義に関し、子供の中心には感動（心が動かされる経験）がある。調査結果からもその必要性は感じているが、音楽の学習が役に立つということを感じていない子供が多いことから、音楽を学ぶ意義を子供たちが捉えられるようにしていくことが大事。
- 芸術系教科は人間の感情に直接的に影響を与えることができる。感性と知性の両輪を働かせることが重要。特に感性に重きを置くモデルや知性に重きを置くモデルがあってもよい。
- スマホなどで考える間もなく情報が入ってくる中にあって、芸術系教科を通して自分とは何か、美しいと感じた理由は何かを思考することで、新たな価値をつくりだすということが重要。正解を求めるのではなく、身体と心を使い、感覚的に捉えることと論理的に思考することを繰り返すことによって、実感的な理解をすることに意味がある。
- 芸術系教科を学ぶこと自体が感性を育む上で重要であり、つくりだす喜びそれ自体の大切さも忘れてはならない。
- 芸術系教科を学ぶ意義を明確化することは教師にとっても子供にとっても重要で、「感性」は一つのキーワードになる。
- 芸術系教科は感覚的に捉えることが感性の育成にも繋がるという特性がある。また人間の感情の変化に影響を与えたり、人間として芸術活動をする上での喜びを体験することが精神浄化につながっていく。
- 【書道】書道の制作過程は一回性であり、筆記具とその対象となる紙が触れ合う触覚、研ぎ澄ます視点が重要となる。

## 【想像力】

- 想像力は図画工作・美術の現行の見方・考え方にも含まれるキーワードであるが、芸術系教科・科目全体で育成すべき資質・能力としていくことが重要。想像力を生かし、授業で学んだことと社会や生活の中での芸術に共通項を見いだすことが芸術を学ぶ意義の認識に繋がる。
- 【図画工作】図画工作では児童が自分のイメージをもちながら主体的に発想や構想をすることが重要であり、発想や構想をする時間を確保することやICT端末を活用することも考えられる。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見③

## 【充実感、達成感】

- 楽譜を読める技能など、粘り強く学習しなければ身に付かない身体的な技能を習得する過程で達成感などを感じることができ、これが学びに向かう力・人間性等にも関わってくるのではないか。
- 表現や鑑賞の前提として、子供の感覚や情意、感性が位置付いていることが必要。子供が教師に伝える「できたよ」には3つの意味があり、①作品・発表ができたという意味、②イメージできたという意味、③私ができた、という意味がある。「私ができた」に対して、活動において子供の感覚や情意、感性が働いた表現や鑑賞として捉えることが教師には必要である。

## 【身体性】

- 身体性を音楽学習のみならず、教科横断等の枠組みに位置付けることで、我が事としての学習が実現し、ひいては全ての教科等に開かれた感性や知性、創造性の土壌となり得ると考えている。
- 芸術系教科では、実際に本物に触れる教科特性があるので、身体性が重要。思考・判断・表現の技能に偏った授業も見られる中で、聴いたり、目で見たり、感じたりしたことを学びとして表現したり、言葉で表していくことも大事。
- デジタル機器の活用も大切であるが、実際の対象物を諸感覚で感じるフィジカル要素も重要。
- 体験活動や諸感覚を働かせて学ぶフィジカルに関するものが教科理解の上で重要。幸福な人生の実現のためには、トップ型の学習だけではなく、美術教育が多く含まれ、学習者本人のありようを尊重した学びであるとともに、幼児期から繋がる諸感覚を駆使した身体性の学びであるボトムアップ型の学習が必要である。
- 芸術系教科の意義、強みは、個人の身体的体験により感情や感覚を巻き込んだ学びができる。個人の感覚・感情と結びついた学びにより身に付いた知識は、他の学習でも生き、ちょっとした違和感に気付く能力のように社会の様々な職業でも生きる。
- 体験が大事であることは言葉で伝えるのではなく、実際の音楽体験や造形体験に基づいて子供たちが実感するものでなければならない。美しいものをつくるなければならないという結果を重視する価値観が子供たちの中にあり、それを払拭していくことが重要。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見④

## 【多様性理解】

- 「多様性の包摂」はこれから時代において重要。特に芸術系教科ならではの様々な学びにつながる。
- 多様性を個人や社会の力に変えていくという点が芸術系教科の強みであり、これを基本的な考え方として、芸術系教科を学ぶ意義を考えていきたい。
- 芸術系教科は絶対的な正解がない学びであるので、多様性（寛容性）の概念も入り得るのではないか。
- 芸術系教科では、一人一人の特性を生かした学びが可能となる。特別支援教育の学びは芸術系教科との親和性が高く、例えば合唱では声が高い人、低い人で別れて歌うが、これはインクルーシブな場であり、多様性の包摂にもつながっていく。
- コマ撮りアニメやプロジェクションマッピングといった様々なデジタルを活用した題材が行われているが、小学校のクラスに学習面や行動面で著しい困難を示す児童がいる現状で、デジタル学習基盤は多様性を包摂するために使うことも考えられる。
- 芸術系教科は分からぬことや理解できないことに面白さを感じることがスタートであり、理解することがゴールではないところに特色がある。探究を通して、自分や他者、世界や社会におけるウェルビーイングを理解していく楽しさが、多様性につながると考えている。
- 表現や鑑賞における対話において、自分の考え方や意見をもつことに加えて、他者を受け入れる学習が学校教育の学びとして重要。将来社会で他者と協働しながら生きていくことに有効であるとともに、互いに尊重する態度を育することにより多様性の包摂の視点からも重要となる。
- 【書道】教師の提示する文字や作品にいかに近付けるかといった再現性を求めるだけの授業からいかに脱却できるか。ICTを活用して生徒の学習履歴を保存することで、生徒一人一人が感じたり考えたりしていることが異なったり、単元が進む中で、自己や他者の考え方や感じ方が変容していくことを自分として確認することもできる。こうした活動の中で、自己の考え方をどのように形成していくか、という視点が、多様性の包摂につながり、芸術科の強みである。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑤

## 【主体性】

- 子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でも放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えることや、学習の過程を重視した指導が求められる。
- 表現と鑑賞の関連について、例えば、国際バカロレアの中等課程では、調査研究を行い、深く文脈に沿って美術を捉え、アイデアを探究し、創作し、振り返りをする。作品だけで評価するのではなく、過程を大切にすることにつながる。
- 子供自らが問い合わせ立て課題を解決できるような授業を考えることが大切。また、教師自身が授業を通して、どんな子供を育てるのかを考え、子供の姿からその資質・能力を発揮できているか捉えて、価値付けていくべき。
- 子供の表現に関わる大人や周囲の環境について、教師や子供と関わる大人等の学習観や子供観もアップデートさせることが重要。子供が自律的に学習することがどういうことなのかについて共通理解を得るべき。
- 【音楽】思考・判断・表現と表現の技能をつなぐ資質・能力として、試行錯誤する力が重要。試行錯誤して答えを見つけ出すことは問題解決の能力として重要である一方で、試行錯誤する場面が少なくなっている。量的な時間としてではなく身体により体験される質的な時間として試行錯誤の重要性を考えていく必要がある。
- 【美術】美しいと感じると同時に、なぜ美しいと感じたかを考えたり話し合ったり説明したりする力がますます重要。教師が視点を示すことは、発達段階に応じて必要だが、知識を一方的に教えるのではなく比較したり語り合ったりして自ら獲得していくことが重要。また、教師が子供の多様な視点や考え方を見付けたり価値付けたりして、子供が気付いていないところも教師が拾い出して整理する力が求められる。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑥

## 【協働性】

- 子供たちが芸術系教科の意義を感じながら学ぶことが重要。学校という集団の中で芸術を学ぶ意義とは、他者と自分との関係性の中で学校が相互承認の場であり、自己肯定感や自己有用感が育まれていく。
- 端末を活用しながらも、個人的な作業ではなく、ともに学び他者と一緒につくりだす喜びや自分が刺激を受ける喜びが必要であり、学校で芸術を学ぶ意義はここにある。
- 【音楽】聴覚だけではなく、視覚や雰囲気など諸感覚を働かせた学びが重要。音楽は時間の流れとともに消えゆく芸術であり、一回のみの時間を楽しむことに音楽のすばらしさを感じられる体験が大切。仲間と一緒につくり上げることの喜びが特徴であり、少人数での可能性や自分で選んだ仲間とともにつくりあげる、多様性を意識することも重要。
- 【音楽】音楽は諸感覚を使う科目であり、仲間とつくり上げながら自分がどう生かされているか、どんな役割を果たしているかを捉えることが必要。伝統文化を題材にするとには自分自身が文化の継承者であることなどを自覚できるようにすることが必要。
- 【メディア】創造的なプロジェクトを協働して実行する力を育むことが重要。作品を構想して発表するまでの間に多くの対話があり、自身の考えを表明するとともに他者の多様な考え方を受け入れ問題解決の糸口を探る。よりよい社会の形成や民主主義社会の基盤を支えることにもつながっていく。

## 【知識・技能】

- 芸術教育そのものである知識・技能の学びを大切にすることが芸術教育の本質である。
- 【音楽】音楽をイメージや感覚で捉えるだけでなく、用語や記号を正しく理解することで他者との共有や共感が可能となる。知識を積み上げていくことで、生活体験と関わらせながら音楽の理解がより深まることに繋がる。
- 【図画工作】児童が自分の表したいことに合わせて表現方法を選んだり組み合わせたり新しい表現方法をつくりだしたりする、自分なりの表し方を工夫することが技能として重要であり、深い学びや創造性につながる。
- 【美術】形や色彩、材料、光などの造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風で捉えるといった知識を今後も明確に示していく必要があり、言葉を使って考えたり、話し合ったりする学習の充実に繋げていく必要がある。このような知識を得ることがものの考え方や捉え方の豊かさになり、学びの深まりが生まれる。
- 【音楽】音楽の技能は学校を離れたときに、自分一人では身に付けることが難しい性質があるからこそ学校でどのような資質・能力を身に付けていくのかを考えていく必要がある。音楽に出会ったときに理解できないことが拒否につながるのではなく、学びや豊かな人生のスタートになるためにどう考えるか、どのような知識が必要なのか、自分たちで探究していく力が大事。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑦

## 【文化の理解】

- 文化への理解は重要であり、我が国の文化とはどういうものなのか、どういう文脈でその文化があるのかといった、広い視野でとらえることが大切。
- 芸術が生まれてくる背景や歴史の基となる文化や社会があることを理解することが重要。グローバルな視野の下に自己を見つめ、多様な文化理解に伴って再度自己理解へつなげていくことも必要。
- 芸術系教科の特質は、文化芸術の継承と発展を担うもの。
- 伝統文化の学習は重要。日本人としての見方あるいは考え方、ひいては日本人とは何かを考えることが重要。
- 伝統文化の学びについて、外国の文化を知ると自国の文化のよさも学べる。地域素材や我が国の伝統音楽に関する教材を用いるなど、学校で伝統的な音楽や文化をしっかりと学べるようにしていくことは重要。
- 発達の段階を踏まえつつ、鑑賞でだけではなく、表現も通して文化の理解について学び、芸術系教科全体を通して学習することが大事。
- 【音楽】グローバル化する社会で生きていくために異文化理解が重要であり、我が国の郷土や伝統音楽に対する理解はもちろんのこと、世界の諸民族の音楽に対する理解について学ぶ意義を示すことは大切。
- 【美術】子供たちが身近な生活の中に根付いている美しい文化を見付けだすという活動を通して、自国だけでなく他国も含めた文化の理解に繋げていくことが重要。
- 【書道】伝統文化の視点として、自国の文化の理解は他国の文化の理解につながりその逆もしかり。グローバルな視点、多様性の包摂に繋がっていく。日本特有の視点がこれからの社会で日本独自の新たな価値を生みだす根底になる。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑧

## 【鑑賞】

- 鑑賞は子供にとって大切な学びである。形や色などを根拠に鑑賞することはできている一方で、その先の文化についても出会えるようにしていくなど、鑑賞を深めていくことが大切
- 実体験を重ねていくことが物事を見る精度を高めていく。自分の感覚を十分に実感した上で鑑賞することにより、見えているものの向こう側にある作家の息遣いや緊張感、深みなどが感じ取れ、深い学びにつながる。
- 現代アートにあるような、作品の中に内在している人類の願いや差別への叫びなどに着目し、鑑賞の中で学んでいくことが重要。時代や社会について考えるきっかけになり、課題や問題提起をしていける視点をもつことにもつながる。
- 作品をどのように捉えていくのか、表現された世界をどのように読み解いていけばよいのか、鑑賞者を育成することが重要。鑑賞のプロセスの具体的手順や方法といった鑑賞の深化を発達段階を通して段階的に育てていくべき。事象を分析的に捉え、批判的に物事を捉える力はあらゆる教科・科目に通底する資質・能力である。
- 感性や感じ取る力は非常に重要。観察や鑑賞を通して心が動く体験を子供たちができるようにしていく必要があり、自分や他者の感情を自覚し受け止めることが大切。

## 【豊かな社会の創造や幸福な人生】

- 創造性は、自分なりの意味や価値をつくりだすことに留まるのではなく、社会との関わりにおいてベクトルを外へ向けていくことが重要。
- 芸術系教科は感性や情操の育成につながる審美教育である。価値を実感できることにより積極的に学びに向かっていく力につながり、価値が生活や社会を豊かにすることにつながるということに実感がもてるようになることが重要。
- 芸術を通して豊かな人間性を涵養し、創造性・感性を育み、情操を培っていくことは豊かな社会の創造において不可欠である。
- 伝統と文化や文化芸術の意義を明確に位置付ける必要がある。日本の文化と世界の文化を知り、比較して学んでいくことや多文化理解はこれからの中でも必要な資質・能力であり、生活や社会とのつながりにおいて芸術が幸福な人生や豊かな社会の創造に繋がることを、表現や鑑賞を通して実感をもって学習することが大事。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑨

## 【教科横断や連携の在り方】

- 概念理解は国際バカロレアの学びと共通していると感じている。教科は教科として学び、教科等横断的な学びは表面的なつながりではなく、本質的な概念で繋げていく。
- 他教科にも汎用できる資質・能力について。現行学習指導要領には「知識を相互に関連付けて」と記載がある。双方向性の学習が重視されているが、他教科に影響を与えるだけではなく、他教科で身に付けた力を芸術系教科で使うこともあり得る。
- 芸術教育で育まれる他教科に汎用する資質・能力は、想像力、試行錯誤する力、挑戦する力、リスクをとる力、自ら問い合わせ考える力、答えのない間に最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力が考えられる。
- 芸術はSTEAMのAの役割として新たな気付きを生み出し、粘り強く解をまとめる教科としての関わりがふさわしく、探究的な学びを深めるためには、その側面から芸術系教科と他教科との連携が重要。子供たちの思い付きや失敗を受容する環境の醸成が大事。
- 日本型のSTEAM教育をどうつくっていくか。STEAM発祥のアメリカと日本とは歴史や考え方方が異なる。STEAM教育は教師自身のマインドセットの向上にもつながるのではないか。
- STEAMは理科系に偏りすぎているのではないか。もっとAの学際性に着目してもよいのではないか。
- 【図画工作・美術】イノベーションに繋がる相互に関連付ける力が芸術系教科・科目の重要な資質・能力。作品に至るまでの過程を重視することが大切で、生活・総合的な学習の時間における探究のプロセスと図画工作・美術における探究・創造のプロセスの共通点・相違点踏まえながら、知識や技能を考えていくことが重要。
- 【メディア】映像分野は教科を繋ぐハブである。物語構成や言語表現での国語、社会課題を考える社会、観察としての理科、論理的思考としての数学、外国を意識したコミュニケーションとしての外国語など。芸術の他分野にも密接に関わる。
- 小中高全体で各教科・科目を俯瞰し、見方・考え方を再構築していくことも重要。学びの深まりについて、書道では小・中の国語科書写とのつながりがあることから国語科書写との連携が重要。文字文化の考え方を再整理する必要があるのではないか。
- 地域社会と学校をどう連携させていくかが重要。芸術系教科の重要性を地域社会にどう理解してもらうか。その上で、他教科との連携はこれまで以上に重要な視点になってくる。

# 第1～2回芸術WGにおける主な意見⑩

## 【その他】

- 現行の工芸の内容は、「身近な生活と工芸」及び「社会と工芸」により整理され、どのような視点に立って資質・能力を育成するかという学びの方向性を意識したものとなっており、今後一層進めていくことが必要。
- 高校においては、音楽・美術・工芸・書道と科目が分かれてしまうが、芸術教科全体として学ぶ意義を考えることは重要。
- 高校のどの科目においても自分や社会にとって芸術がどのような意味や価値をもつのかを学ぶことは、人生を豊かに生きていく観点から重要。
- 作品をつくっていくというプロセスの中に、創造性、批判的思考、問題解決能力、協働性、コミュニケーション能力、ICTリテラシーといった重要なスキル、能力の開発が含まれている。
- 各科目の共通する中核的概念は見えてきそうだが、各論に入ったときにそれがどう結び付けられるか。
- 構造化・表形式化をイメージするにあたり、現行学習指導要領解説の系統表のように発達段階ごとの系統をはっきりさせていくべき。見方・考え方は系統立てるのは難しく、シンプルに示していくべきではないか。
- 総則評価部会の構造化パターンにおいて示された、高次の資質・能力を「知識及び技能の統括的な理解」とすることについて、「理解」という言葉で文末をまとめることは芸術系教科の内容の特性を考えたときに適切かどうかと考える。